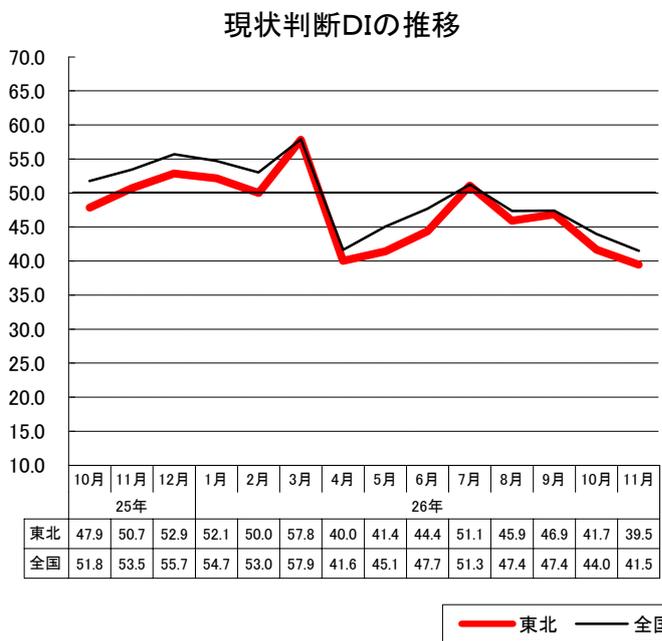


公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26 年 11 月東北分
(新潟を含む東北 7 県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力(株)取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成 26 年 11 月東北分（新潟を含む東北 7 県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断 DI「39.5」（▲2.2）は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる 50 を 4か月連続で下回った。



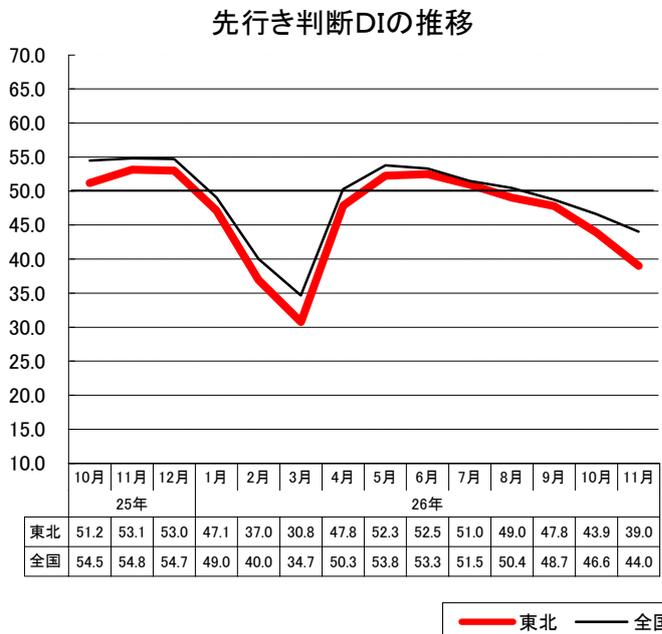
・家計動向…消費者マインドは依然として改善されず、百貨店、衣料品専門店、スーパー等で、買い控えが続いている。DI は「38.6」（▲1.6）と 2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 8 か月連続で下回った。

・企業動向…建設業や出版・印刷業等の一部の業種で DI が改善したが、その外の多くの業種では、受注・販売環境が厳しいまま推移している。DI は「40.5」（▲3.5）と 2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 2 か月連続で下回った。

・雇用動向…DI は「43.2」（▲3.4）と 2 か月ぶりに前月を下回り、基準値 50 を 3 か月連続で下回った。

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断 DI「39.0」（▲4.9）は、5か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる 50 を 4か月連続で下回った。



・家計動向…消費税率 10%への引上げが先送りされたが、景気の先行き不透明感は続いており、消費を抑える傾向にある。さらに、年末の総選挙は、お歳暮商戦や飲食関係等にマイナスに作用するものと懸念されている。DI は「38.1」（▲5.4）と 5 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 4 か月連続で下回った。

・企業動向…年度末に向けて受注が期待される建設業や出版・印刷業等の一部の業種を除き、多くの業種で DI が低下している。DI は「40.5」（▲4.7）と 2 か月連続で前月を下回り、基準値 50 を 2 か月連続で下回った。

・雇用動向…DI は「42.0」（▲2.3）と、2 か月ぶりに前月を下回り、基準値 50 を 3 か月連続で下回った。

<参 考>

■DIの推移※

(1) 現状判断(方向性)DI

	25年			26年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北現状	47.9	50.7	52.9	52.1	50.0	57.8	40.0	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9	41.7	39.5
家計動向関連	45.4	48.4	49.1	48.3	45.9	55.4	35.9	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2	40.2	38.6
企業動向関連	50.6	53.6	60.4	59.5	59.5	65.5	46.4	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0	44.0	40.5
雇用関連(参考)	59.1	60.2	63.6	63.6	59.1	59.1	54.5	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5	46.6	43.2

(2) 先行き判断DI

	25年			26年										
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北先行き	51.2	53.1	53.0	47.1	37.0	30.8	47.8	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8	43.9	39.0
家計動向関連	51.0	51.6	52.1	45.0	34.8	29.3	48.1	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9	43.5	38.1
企業動向関連	50.0	57.7	54.3	51.2	43.5	31.5	44.0	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2	45.2	40.5
雇用関連(参考)	54.5	54.5	56.8	53.4	38.6	38.6	53.4	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9	44.3	42.0

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成 26 年 11 月 25 日～30 日

回答者数 209/210 名、回答率 99.5%(全国 1,850/2,050 名、90.2%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（建設業）…仕事の量的問題から競争が緩和されて、適正価格での受注が続いている。

○「変わらない」

（商店街）…8月下旬の長雨以降、消費動向が盛り上がりえないまま年末を迎えそうである。特に買い回り品については、購入に慎重な態度がうかがえる。

（スポーツ用品店）…個人客の消費の動きが非常に悪い。前にも増して不要なものは購入しなくなっている。

（百貨店）…コート類の動きが鈍いなど冬物の衣料品の動きは全体的に低調である。また、高額商材に対する動きも依然として低調である。さらに、来客数も減少傾向が続いていることに加えて買上率も低調であり、客の慎重な買い方に変化はない。

（家電量販店）…来客数がなかなか戻らない状況に変化はない。

（靴専門店）…降雪、積雪がなく、長靴やスノートレニングシューズなどの冬物商品が売れない。

（観光型旅館）…11月終わりまでの大型団体旅行があり、集客は順調である。

（旅行代理店）…客は購入金額、商品内容を慎重に検討している。また、高額商材の売上も減少している。

（通信会社）…新規加入客数は増加しているが、これまで減少傾向にあった解約客数がやや増加しており、トータルで見るとほとんど変化はない。

（美容室）…引き続き再来店率が前年比95%で推移している。4月ごろから前年比ベースはほぼ横ばいの状態が続いている。

（農林水産業）…ふじりんごの年末贈答用の注文数は前年並みであるものの、震災前の数字には届いていない。

（出版・印刷・同関連産業）…前年と比較するとやや鈍っている感があるものの、選挙の仕事が入ったことでカバーできている。

（人材派遣会社）…新規派遣登録者数の伸びが悪く、需要と供給のバランスが悪い。

○「やや悪くなっている」

（スーパー）…来客数はほぼ前年並みであるものの買上点数は減少している。消費者が必要なものしか買わない状況が続いている。

（コンビニ）…消費税率10%への引上げが先送りされたものの、将来に対する不安と今年の景気の悪さから、更に買い控えが進んでいる。お金を使わないようなムードが顕著に表れている。

（衣料品専門店）…11月は冬物衣料の実需期にもかかわらず、売上の中心になるコートやニットが売れない。持っているもので済ませるといった客の声が圧倒的に多い。

（乗用車販売店）…通常なら数年サイクルで代替えしていた固定客すらも、一旦は修理に出して直すなどしており、消費行動の低下がみられている。

（高級レストラン）…会社関係の利用が減ってきている。

（設計事務所）…なかなか新しい仕事が決まらない状況が続いており、仕事が途切れそうなところまできている。

（食料品製造業）…東北地方での販売不振が原因で、販売量の前年割れが続いている。

（土石製品製造販売）…新規発注工事がどんどん出ている。しかし、受注価格を安く見直して欲しいという取引先業者からの要望により、厳しい工事価格で請け負っている状態である。

（飲食料品卸売業）…3か月前と比べるとやや悪い状況が続いており、販売量、受注量共に前年比で2～3%ほど落ち込んでいる。周辺の商店もほとんど客足が遠のいているのが現状である。

（企画業）…沿岸部は別として、内陸部における住宅建築受注数の前年割れが続いている。消費税増税の影

響がこんなに長引くとは予想しなかったと語る取引先が多い。

(新聞社[求人広告])…景気の先行きに不透明感を感じ始めているため、採用意欲が減退気味の企業が増えている。

(職業安定所)…新規求人数が3か月連続で前年同月を下回っており、求人倍率も前月を下回っている。

○「悪くなっている」

(一般レストラン)…前年同時期の様子と比べても今年の秋は非常に苦戦している。なんとなく景気が悪いというマインドに支配されており、レストランに行こうという雰囲気は完全に失われている。会員向けにおこなっている賞味会の来客数も前年より半減しており、大変厳しい方向に向かっている。また、材料費も高くて困っている。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(設計事務所)…今月末になり、ここ2か月先までの仕事が決まりつつある。多少は良くなるとみているが、その先は全くみえない。

(出版・印刷・同関連産業)…年度末は忙しくなる。しかし、官公庁の仕事の減少や価格競争を心配している。

(建設業)…現在発注されている大型復興工事の受注確定が、年度末に向けて増加していく見込みである。

○「変わらない」

(商店街)…地方都市の現状として、半年以上も消費需要が停滞している。また、これから冬本番になり雪が降れば外套関係、靴関連の売上が伸びていくとみているが、バーゲン、セール合戦による客単価の落ち込みを懸念している。

(人材派遣会社)…人材不足の状態は継続するとみている。

(職業安定所)…求人の状態はここ数か月間変わりなく安定している。現在のところ企業の大規模な創業、管内への進出、また大規模な人員整理の情報も無く、近い将来の求人動向としては大きな変化はみられない。

○「やや悪くなる」

(スーパー)…来客数、客単価共に前年割れとなっており、さらに、買上点数が極端に悪くなっている。1点単価は上がっているものの、景気が上向く兆候はみえない。

(コンビニ)…前年比90%の売上ではあるが、利益をねん出するためには経費の削減を求められており、限界は近い。

(酒類専門店)…年末まで持ち堪えたところでの総選挙の実施は、ただでさえアベノミクスの恩恵を感じていない地方では政府への不信感もあり、景気に大きく影響する。また、お歳暮などを全面的に控える企業も出てきているため、ギフト商戦にも大きな打撃を与えている。この影響はおそらく3か月間は続くともみている。

(一般レストラン)…今の段階で、2~3か月後の予約の見通しが全くない。消費者は、景気が思ったほど良くなっていないと認識してしまっているため、再び自粛モードに入っている。劇的な変化があればまたマインドは上がるとみているが、今のところ期待できないので非常に懸念している。

(タクシー運転手)…総選挙が始まると仕事に少し悪い影響がでる。今のところは大丈夫だが、12月に入るとこの先1~2か月は売上が少し落ち込むのではないかとみている。

(通信会社)…年末に向けて年内最大特典のボーナスキャンペーン期間中でありながら、思った以上に数字が伸びていない。新年からは通常のキャンペーン展開に移行するが、冬本番を迎えて人の動きも鈍くなるので、新規加入者より解約者の数が上回るものとみている。

(食料品製造業)…円安の影響による原材料費の高騰に耐えられない。値上げの検討に入っているが、消費

の落ち込みを懸念している。

(電気機械器具製造) …新規の受注が出てきている会社もあるが、設備投資や厳しいコストダウンなどにより、年度末に向けて経営としては厳しくなっていくのではないかとみている。

(輸送業) …主要荷主の減産が決定している。また、当地区の水産関係で缶詰の原料が不足気味のため、物量が減少するとみている。

(経営コンサルタント) …年末の総選挙はさらに景気を冷え込ませる要因である。

○「悪くなる」

(百貨店) …来年の1～3月は、今年の消費税増税前の駆け込み需要の影響で前年比を大きく伸ばした実績に対して挑まねばならない非常に難しい月である。明らかに秋冬商戦は伸び悩んでおり、百貨店の施策で乗り切れるほど消費者の状況は好転していない。

(高級レストラン) …市場は狭まっていく一方であり、今後は市場の取り合いになる。

(飲食料品卸売業) …年末の総選挙を控えて、贈答や飲食店向けの出荷が鈍化することを懸念している。前回の2012年選挙の際は、忘年会の開催が極端に減り、飲食店向け出荷が1割減となった。

(新聞社[求人広告]) …消費税率10%への引上げの延期により、駆け込み需要も期待できなくなっている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上